

## 先端科学技術専攻 3つのポリシー相関図

ディプロマ・ポリシー 前文／脚注	本学先端科学技術研究科先端科学技術専攻では、先端科学技術の確かな専門性ととも、持続可能な社会において求められる幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーとして活躍できる高度科学技術イノベーション人材を育成することを教育目標としています。 博士前期課程においては、以下の能力を修得し、所定の単位を取得して修士論文等審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した者に、基幹となる学問分野(※)に応じて、修士(知識科学)、修士(情報科学)又は修士(マテリアルサイエンス)の学位を授与します。 博士後期課程においては、上記に加えて以下の能力を修得し、専門分野において優れた研究業績をあげ、かつ、所定の単位を取得して博士論文審査及び最終試験に合格した者に、基幹となる学問分野(※)に応じて、博士(知識科学)、博士(情報科学)又は博士(マテリアルサイエンス)の学位を授与します。  基幹となる学問分野(※) 知識科学: 人・組織・社会の課題に対してデザイン方法論、経営学、システム科学などの知見を総合して魅力的な解決策を提案し、その実現方法を考える学問分野。 情報科学: 情報化社会を支える情報処理・通信に関する技術(ICT)において、人類・社会の課題解決や未踏分野の開拓を目指し、新たな革新的基礎理論・基盤技術・応用を創り出す学問分野。 マテリアルサイエンス: 物理・化学・生物及びそれらの関連科学技術を基として、人類・社会の課題解決や未踏分野の開拓を目指して、新たな革新的マテリアルを創り出す学問分野。					
ディプロマ・ポリシー (前期課程)	専門分野における先端科学技術の基礎概念を理解する能力	専門知識を応用して問題発見や問題解決できる能力	学術的、社会的に価値ある研究を主体的に遂行できる能力	専門とは異なる分野や未踏分野に挑戦できる能力	多様な文化に対する理解力、コミュニケーション能力	研究者、技術者としての高い倫理観
ディプロマ・ポリシー (後期課程)	専門分野における先端科学技術の理論や体系を幅広く理解する能力		学術的に新規性、独創性のある研究を立案、遂行し、世界的に通用する研究業績をあげる能力	俯瞰的な視野を持ち、先端科学技術分野においてリーダーシップを発揮できる能力		
カリキュラム・ポリシー 前文／脚注	本学先端科学技術研究科先端科学技術専攻では、ディプロマ・ポリシーに示した能力の修得に向けて、各学位の基幹となる学問分野(※)に対応した講義及び研究室教育を、以下のように実施します。  基幹となる学問分野(※) 知識科学: 人・組織・社会の課題に対してデザイン方法論、経営学、システム科学などの知見を総合して魅力的な解決策を提案し、その実現方法を考える学問分野。 情報科学: 情報化社会を支える情報処理・通信に関する技術(ICT)において、人類・社会の課題解決や未踏分野の開拓を目指し、新たな革新的基礎理論・基盤技術・応用を創り出す学問分野。 マテリアルサイエンス: 物理・化学・生物及びそれらの関連科学技術を基として、人類・社会の課題解決や未踏分野の開拓を目指して、新たな革新的マテリアルを創り出す学問分野。					
カリキュラム・ポリシー (講義)	他分野出身者及び入門者向け科目(導入科目)、大学院としての基礎科目(基幹科目)、高度な専門科目(展開科目)及び発展的・先端的な専門科目(発展科目、先端科目)から構成される階層的かつ体系的な講義群を、日本語又は英語により開講する。	専門知識を理解して活用できる能力の修得を、各講義の達成目標として定める。  能動的学修方法を積極的に取り入れる。  主に試験による厳密な成績評価を行う。		情報科学と知識科学の基礎と方法論を活用しつつグループにより研究を進める能力及び自らのレベルアップを図る能力を修得させる。		
カリキュラム・ポリシー (研究室教育)	研究室教育を通じて、先端科学技術分野の基礎概念の理解を深化させる。  学生の資質や学修目標を勘案し、目標の達成度を管理しつつ、多様で自由度の高い研究室教育を行う。	個別指導、少人数教育、協調的学修などを通じて、専門知識を応用して問題発見・問題解決できる能力を修得させる。  専門分野の異なる複数の指導教員を置き、異なる視点からの研究指導・評価が受けられるようにする。	関連研究の調査を踏まえた研究計画の立案、修得した専門知識・スキルを活用した研究の実施、結果の考察、成果発表に至る一連の研究プロセスに必要な能力を修得させる。	専攻分野に隣接若しくは関連する分野の研究課題又はインターンシップを課し、異なる分野・環境において研究を進める能力を修得させる。  専門とは異なる分野や産業界の視点から指導を受ける機会を設ける。  博士後期課程においては、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)の機会を通じて、リーダーシップを発揮できる能力の向上を図る。	目標・経歴・国籍などの多様性に富む研究室環境において、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力の向上を図る。	研究活動を通じて、社会に対する自らの責任を理解し、研究者・技術者としての高い倫理観を養う。
	上記の研究室教育の達成状況に係る評価を行う。					
アドミッション・ポリシー (前期課程)	本学は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスを基幹とした先端科学技術分野における学修や研究への強い意欲と明確な目的意識を持ち、自分の考えを的確に表現でき、議論を通じて相互理解に努めようとする態度を持つ者を求めます。その際、学部を持たず大学院のみを置く大学として、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、大学等の卒業・修了者、外国人留学生及び社会人等を広く受け入れます。 入学希望者は、各々が学士課程等において専攻した専門分野の学習内容を十分修得しておくとともに、本学入学後に行う学修・研究について準備しておくことが期待されます。 上記の求める学生像を踏まえて、入学後に学修・研究を行う上で必要な基礎的な学力・能力及意欲等について、入学後に取り組みたい研究課題に関する小論文、面接(口頭発表及び口頭試問。基礎的な学力等及び学士課程等の専攻分野に関する口頭試問を含む。)及び大学等の成績証明書によって評価して入学者を選抜します。 なお、評価に当たっては、出願書類を参考にしつつ、面接結果を重視します。ただし、推薦入学特別選抜にあつては、原則として、面接を免除し、小論文及び推薦書等の出願書類等に基づき、入学者を選抜します。					
アドミッション・ポリシー (後期課程)	本学は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンスを基幹とした先端科学技術分野における研究への強い意欲と研究を通じた社会貢献に関して明確な目的意識を持ち、自分の考えを的確に表現でき、議論を通じて相互理解に努めようとする態度を持つ者を求めます。その際、学部を持たず大学院のみを置く大学として、過去の経歴や専攻分野にとらわれることなく、大学院等の修了者、外国人留学生及び社会人等を広く受け入れます。 入学希望者は、知識科学、情報科学、マテリアルサイエンス及びその関連分野に関する専門的学力・能力を修得し、修士学位に相当する研究実績を有していることが期待されます。 上記の求める学生像を踏まえて、これまでの研究実績、入学後に学修・研究を行う上で必要となる専門的学力・能力及意欲について、入学前の研究概要・入学後の研究計画等に関する出願書類及び面接(口頭発表及び口頭試問)により評価して入学者を選抜します。 なお、評価に当たっては、出願書類を参考にしつつ、面接結果を重視します。ただし、推薦入学特別選抜にあつては、面接を免除し、研究概要及び研究計画等の出願書類等に基づき、入学者を選抜します。					